

よこはま こども植物園だより

No.177

〒232-0066 横浜市区六ツ川 3-122
TEL 045-741-1015 FAX 045-742-7604
開園 9:00-16:30 (第3月曜日は休園、祝日の場合は翌日)
<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/kodomo/>



令和 7 年 6 月発行
発行部数 23,000 部
編集・発行
(公財)横浜市緑の協会
横浜市こども植物園

日本には古来から伝わる日本独自の色があります。なかには植物と関係がある色が多く存在します。今回は、日本の大切な文化のひとつであるそれらの色について紹介します。意外な発見があるかもしれません。

いにしえから未来へ 色のなまえと植物

あかね
茜色

暗い赤色。
アカネの根から採られる色。

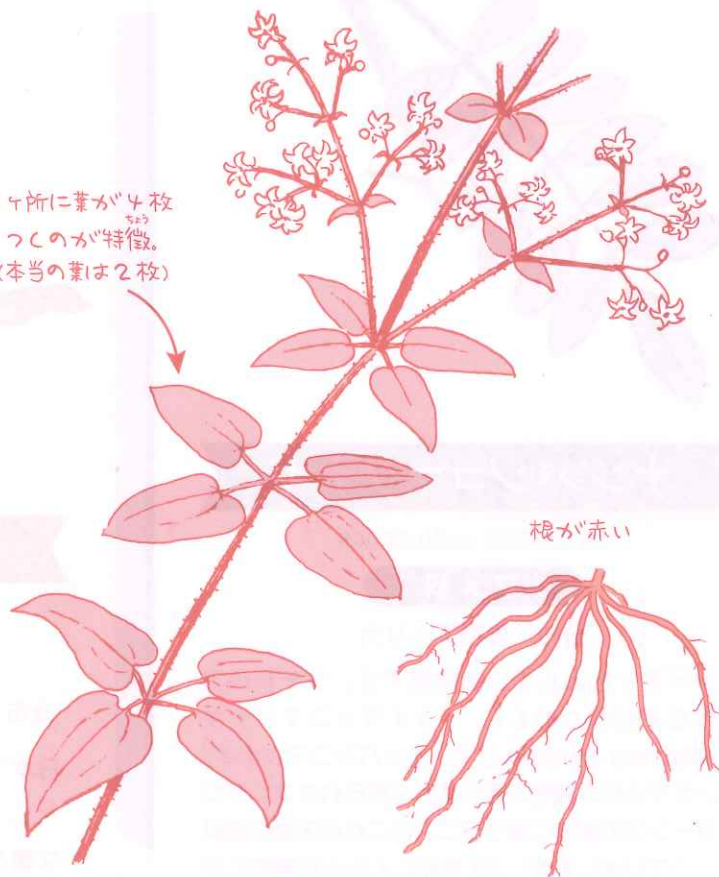
アカネ アカネ科

Rubia argyi

分布：日本を含む東アジアや東南アジア山地や野原、路傍、林縁などでよく見かけることができます。

根が赤い色をしているので、赤根といい、漢字の茜はこの植物のことで夕焼けの赤を茜色といいます。生の根は黄色味をおびていますが、乾燥させると暗い赤色に変わります。

1ヶ所に葉が4枚
つきののが特徴。
(本当の葉は2枚)



根が赤い

べに
紅色

あざ
鮮やかな赤色。
ベニバナの花から採られる色。

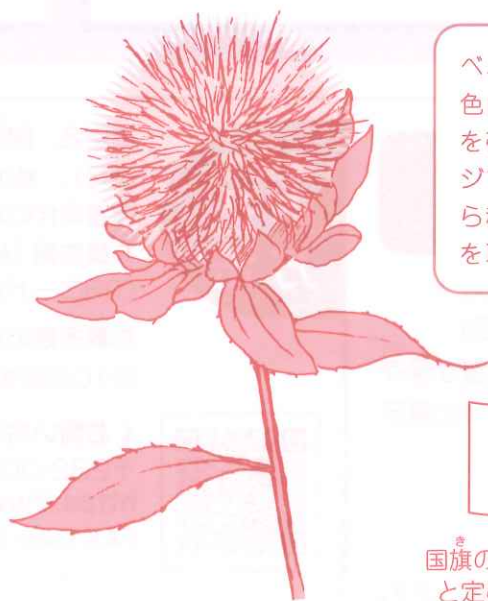
ベニバナ キク科

Carthamus tinctorius

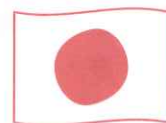
分布：トルコ、イラン

4~5世紀ごろ日本へ伝わったとされています。衣服の染料や口紅などの化粧品、食品の着色料に利用されています。種子からはサフラワー油という食用油も採れます。

ベニバナから採れる色素を紅といいます。紅で染めるのは、非常に手間ひまがかかるため貴重な色で、平安時代、特に濃い紅色の着物は高貴な人々が着用を許されませんでした。江戸時代には金と同じ価値があるほどの高級品でした。



ベニバナの花の色自体は黄色味を帯びたオレンジですがそこから赤い色素だけを取り出します。



国旗の日の丸は「紅色」と定められています。

あい
藍色

深い青色。
アイの葉から採られる色。

アイ

Persicaria tinctoria

タデ科

分布：中国、ベトナム
世界で最も古い染料といわれています。日本へは奈良時代に伝わりました。紫や紅とはちがい、武士や庶民の色でした。海外では「ジャパン・ブルー」とよべれます。



くわ
桑の実色

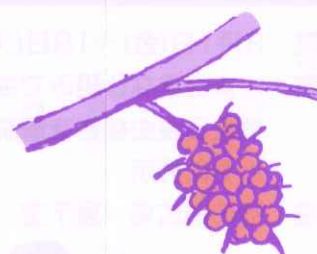
暗い赤紫色。
桑の果実から採られる色。

ヤマグワ

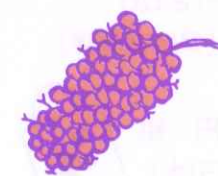
クワ科

Morus indica

分布：インド~日本を含む東アジア
もともとは、桑色といわれていました。



●ヤマグワの果実●



●マグワの果実●

中国原産。
葉は、カイコのえさになる。

むらさき
紫色

赤と青の中間色。
ムラサキという植物の根（紫根）から採られる色。

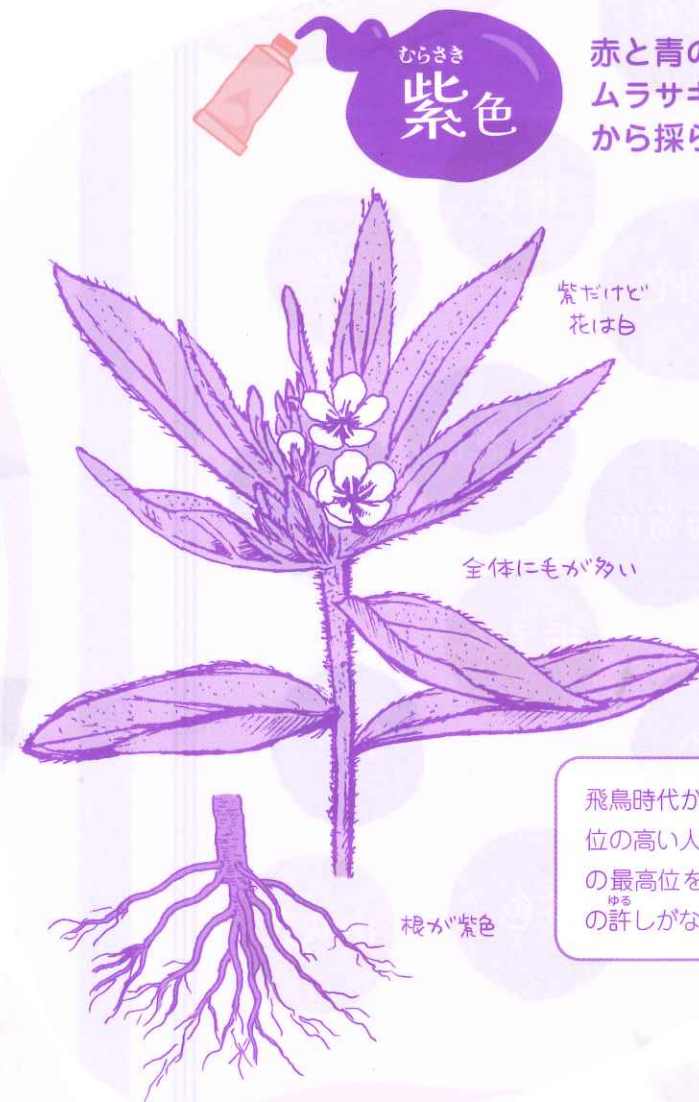
ムラサキ

Lithospermum erythrorhizon

ムラサキ科

分布：日本を含む東アジア~シベリア東部。

この植物が群れて咲くようすからムラサキとなったという説が有力。ムラサキはとて貴重な植物だったので紫色は古代より限られた人たちが使う色でした。



飛鳥時代から『紫』は宮廷の天皇をはじめ位の高い人たちの色でした。そのため僧侶の最高位を表す「紫の袈裟(けさ)」も朝廷の許しがないと着用できませんでした。

うこん
鬱金色

やや赤みがかった黄色。
ウコンの根茎から採られる色。

ウコン

ショウガ科

Curcuma longa

分布：インド

奈良時代に日本へ伝わりました。カレーのスパイスのひとつでもある「ターメリック」でもあります。たくあんなど食品の着色にもつかわれます。



根茎を使う。割ると中は黄色い。

まだある！植物の色

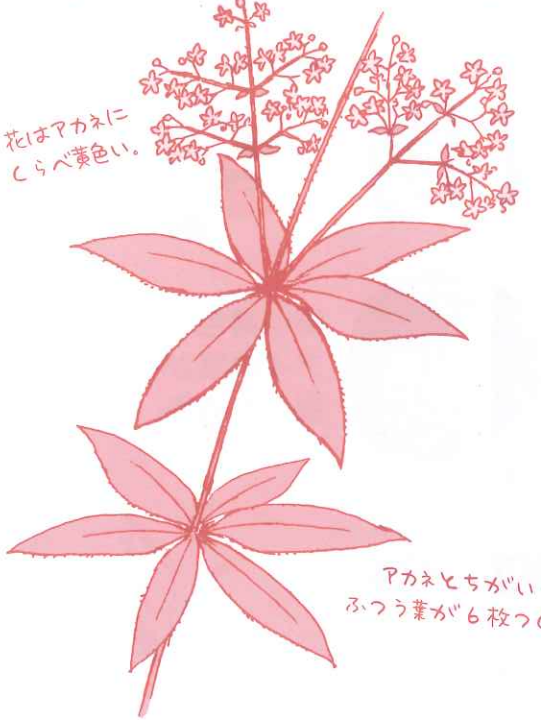
その植物から採り出すわけではないが
名前になっているもの

名前からどんな色が
想像してみよう！

- あずき 小豆色
- くり 栗色
- かば 樺色
- もも 桃色
- つづじ 躑躅色
- ぼたん 牡丹色
- あさぎ 浅葱色
- なすこん 茄子紺色
- かき 柿色
- ぶどう 葡萄色
- くちなし 梔子色
- すみれ 堇色
- さくら 桜色
- ふじ 藤色
- ちや 茶色
- やまぶき 山吹色

西洋の色 - Colors of the West -

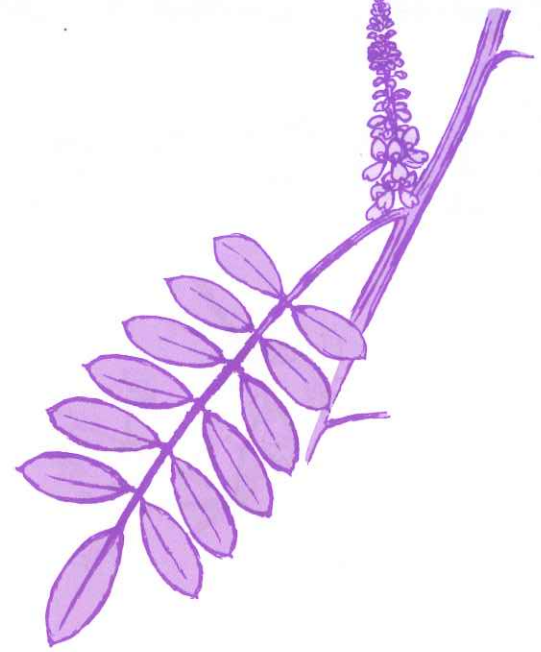
西洋の茜色 アカネ



セイヨウアカネ

Rubia tinctorum
アカネ科
分布：ヨーロッパ～小アジア
地中海沿岸で栽培されていました。日本のアカネとはちがい「アリザリン」という成分が主の赤い色素が採れ、これを「アカネ色素」といいます。古代の西洋では重要な染料でした。

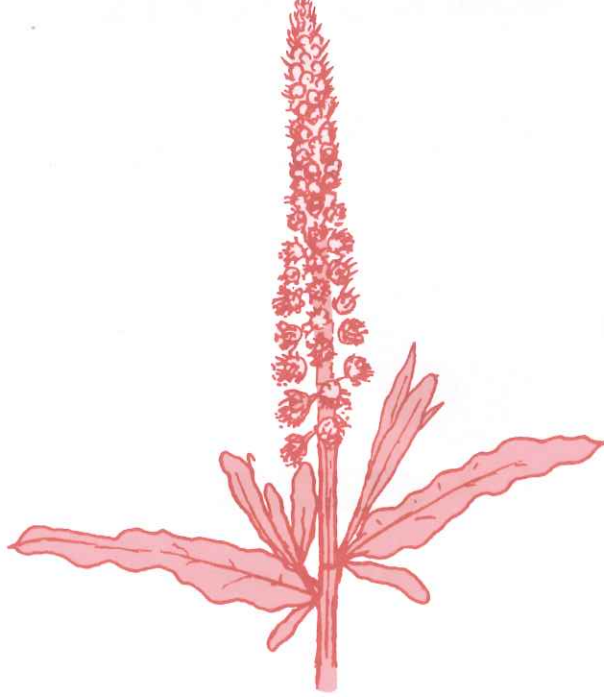
西洋の藍色 インディゴブルー



ナンバンコマツナギ

Indigofera suffruticosa
マメ科
分布：熱帯アメリカ
インドアイとよんでいる染料です。タデ科のアイからではなくおもに、「タイワンコマツナギ」(Indigofera tinctoria)や「ナンバンコマツナギ」というマメ科の植物の葉や茎から採られます。かつてジーンズの生地を使うデニムはこれら天然の染料で染めていましたが、20世紀に入ると化学的に作られた合成染料によって代わられてしまいました。

西洋の黄色 ウェルポ



ホザキモクセイソウ

Reseda luteola
アブラナ科
分布：北アフリカ、ヨーロッパ、中央アジア
日本では馴染みがない色ですが、西洋の染料としては最も古いと考えられている、伝統的な黄色の染料です。ホザキモクセイソウの葉から採られます。

横浜市こども植物園 2025 夏のイベント

エジソンの点灯実験 ～マダケでつくるフィラメント～

日時：7月26日(土)
①10:00～12:00
②13:30～15:30
対象：小・中学生
(小学生は保護者同伴)
定員：各5組
費用：1,000円/組
締切：7月9日(水)

タデアイのたたき染め ～エコバッグをつくろう～

日時：8月2日(土)
10:00～12:00
対象：小学生(保護者同伴)
定員：12組
費用：1,000円/組
締切：7月16日(水)

食虫植物展

期間：8月1日(金)～19日(火)
内容：さまざまな仕組みで虫を捕える食虫植物を解説とともに展示
会場：池の前広場/展示室

横浜の植物 植物標本展

期間：8月31日(日)～
9月28日(日)
内容：こども植物園が保存する植物標本の展示
場所：展示室
協力：横浜植物会

講座の 申込 方法



講座名、開催日、郵便番号、住所、電話番号(日中連絡が取れる番号)、参加する方の氏名(フリガナ、お子様の学年・年齢、保護者同伴の場合は保護者の氏名)を明記し、ハガキ、FAX、こども植物園「緑の相談所」(開園日の9時～16時)、ホームページ(QRコード)からお申込みください。締切日必着。
応募多数の場合は抽選します。結果は当選者と補欠の方に開催日の10日前を目安に郵送にてお知らせします。

《お問い合わせ》横浜市こども植物園 TEL:045-741-1015
〒232-0066 横浜市南区六ツ川3-122
<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/kodomo/>
FAX:045-742-7604

※スケジュールは変わることがあります。ホームページ等でご確認をお願いいたします。